

八学光星は甲子園準々決勝で力尽きた。青森県内では来春のセンバツをにらんだ新チームによる戦いが既に始まっている。今夏の青森大会で対戦した地元ライバルは、健闘をたたえつつ、今後の試合での光星打倒へ闘志をかき立てている。

青森大会3回戦で対戦した青森山田の兜森崇朗監督は「甲子園で1戦ごとに成長していく様子が見て取れた。準々決勝も青森代表と

光星打倒へ闘志 青森県内校ライバル

して、素晴らしいゲームをしてくれた」とライバルをねぎらった。その上で来月の県大会などを視野に「（光星に）負けないチームを作りたい」と決意を新たにしていた。

同大会1回戦で光星に挑んだ大間の村岡需監督（26）は「期待した優勝には届かなかったが、何点取られても追い付けると思わせる打撃力はさすがだった」と評した。地区大会の試合終了後、グラ

ウンド整備をしていた新主将の工藤竜馬さん（2年）は「力の差を感じたが、少しでもあんな野球ができるよう頑張りたい」と語った。

同大会準々決勝に捕手として出場した三沢商新主将の鶴ヶ崎隼人さん（2年）は健闘をたたえながら、「バンドなど細かい攻撃も身に付け、全員が長打が打てるようにしたい。私立を倒すため、練習していく」と意欲満々だった。（取材班）